



生名島後新開の水田（昭和30年代）
生名村写真史編集委員会
『ふるさとの思い出 生名島』昭和62年より

ふるさと 上島学への招待

⑧



上島町教育委員会
有馬 啓介

島の畑地と溜池

秋のある日、町指定天然記念物であるナタオレノキの調査のために高井神島を訪れました。高井神島の集落の後方を眺めると、尾根近くまで竹林が見えました。案内をしてくれた高井神島の方によると、現在竹林である場所は、かつては段々畑であったようです。このような現象は、島の各地で見られません。

昭和30年代から40年代にかけての航空写真と現在の航空写真を見比べると、前者には山の中に地面の色が目立ちます。現在とは比較にならないほど山に畑地が広がっていたのです。麦やサツマイモ、除虫菊、柑橘等の畑です。昨年度に実施した調査でも、昭和時代の島の農業についての聞き取りを行いました。島で農業が盛んに行われていた時代には、二毛作のイモと麦の収穫の時期に合わせて学校では農繁休業が

あったというお話を聞くこともできました。地域によっては、それが稲や柑橘の収穫の時期であったことでしょう。

日本人は稲作農耕民といわれていますが、果たしてそうなのでしょう。時代や地域によって異なり、一括りにするのはよくないのかもしれませんが。しかし、稲穂揺れる風景を見ると、「日本の原風景」と感じてしまうのは、多くの日本人なのかもしれません。

現在の島にも、水田が見られる地域があります。岩城島の小漕地域からは、弥生時代の穂摘具である石庖丁が出土しており、そこでは約2,000年間稲作農耕が行われていたのかもしれませんが。また、島のいたるところに灌漑用の溜池が見られますが、それは稲作が盛んであった時代を今に伝えています。

スポーツ振興や健康増進目指し着任

2015年10月1日付で上島町島(地域)おこし協力隊に着任いたしました、大西美穂と申します。住居は弓削島、普段は佐島の教育委員会に籍を置き、活動をしています。

島おこし協力隊と聞いても、いまいちよくわからない、という方もおられるかと思います。地域おこし協力隊という制度は、人口減少や高齢化の進む地方が、地域外の様々な分野の人材を受け入れ、定住・定着を図るものです。協力隊は、地域や住民の方々のニーズを捉えながら、地域力の維持や強化ができるよう活動していきます。

私は上島町に来る前は、松山市でスポーツジムのコーチングスタッフとして働いておりました。それより以前は

ゴルフ業界に勤務しておりました。そして、30歳を過ぎたあたりから「自分ができることで人のお役に立てることを仕事にしたい」と強く思い始め、今回島おこし協力隊に応募し、現在に至ります。私は学歴も特別な能力も持っておりませんが、今までの経験を生かし、スポーツ振興や健康維持・増進に関わることを、と考えております。

11月からは、岩城島に1名、協力隊が赴任する予定です。これからは協力隊2名が交互にこのコーナーを担当し、活動報告等をしていきますので、よろしくお願いいたします。なお、Facebookやホームページのブログでも随時情報発信していきますので、こちらもご覧ください。



弓削港務所2Fテラスから

島おこし 協力隊 活動報告



島おこし協力隊
大西 美穂

弓削高等学校

<http://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>



運動部、
新人戦地区予選出場

2年生、修学旅行で東京へ



10月6日(火)から9日(金)にかけて2年生は鎌倉、横浜、東京へ修学旅行に行ってきました。安全に楽しく有意義な4日間を過ごすことができました。修学旅行を終えて、2年生の寺澤沙矢さんは「東京は高層ビルばかりで慣れない土地でしたが、いろいろ盛りだくさんで「楽しい」の一言に尽きる、とても素敵な場所でした。」と感想を

述べてくれました。

新人戦東予選出場



9月19日(土)・20日(日)に女子ソフトテニス部、22日(火)・23日(水)・26日(土)に男子テニス部、10月24日(土)・25日(日)に卓球部とバドミントン部で新人戦東予地区予選が行われました。

接戦の末、バドミントン部2

年生の重田朋未さんが個人戦で県大会に出場することになりました。「練習の成果を発揮できた部分もありましたが、ミスも多かったので、課題と向き合い、バドミントン部全体で成長していきたいです。」と抱負を語ってくれました。バドミントン部は団体戦も含めて11月7日(土)・8日(日)に開催される県大会に向けて頑張りますので、応援よろしくお願いします。



弓削商船高等専門学校

<http://www.yuge.ac.jp/>



高専プログラミングコンテストで最優秀賞受賞

平成27年度専攻科入学式

平成27年10月1日、本校第一会議室において専攻科(海上輸送システム工学専攻)入学式が挙行されました。



式では入学生1名による宣誓が行われ、その後「学びたいことは何であるかを心がけて勉学を進め、海事のスペシャリストと呼ばれる人材になることを目指して下さい。」と木村校長よ

り式辞が述べられ式典は終了しました。

さらに高度な技術者を目指し2年間の学生生活のスタートを切りました。

高専プロコン自由部門で最優秀賞(文部科学大臣賞)受賞

平成27年10月11日~12日、長野市のホクト文化ホールにて開催された第26回全国高等専門学校プログラミングコンテスト自由部門において、小型船舶が安全に航海できるシステムを出品した本校学生5名によるチームが最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞しました。

本校が出品した「Smart AIS

—海内の旗幟—」は、AIS(大型船で搭載が義務化されている近隣船舶間で情報交換を行う専用機器)などに代わり、誰でも持っているスマートフォンによる小型船舶を対象とした航海支援を行います。GPSで船舶位置情報を取得して衝突や座礁の危険検知、サーバを介した緊急事態の対応など、小型船舶で起こりがちな事故対策ができます。

